

# 全国精神保健福祉会連合会2021年度事業・活動報告

2021(令和3)年度はコロナ禍をへての新しい働き方(ニューノーマル)となった。事務局業務や諸会議などオンラインを活用した非接触型のとりくみを展開した。その中で下記の7本の重点課題を軸に事業をすすめるように努めた。

## 【2021年度重点課題】

- WEBの積極的な活用
- 法人の持続運営に改善計画の策定および実施(賛助会員拡大推進)
- 「みんなねっと精神科医療への提言」の発表
- 多様な立場の家族との連携活動の充実(ネットコミュニティ等の連携・強化)
- 各ブロック活動とみんなねっとのとりくみの共有・連携強化(理事会活性化)
- 医療費助成の実績の共有から要求推進へ
- 交通運賃割引制度実現への働きかけ

## 1 本事業計画の趣旨

- 精神障がい者と家族の願い実現のために、法人の持続可能な運営に向けた緊急対策としての賛助会員の拡大のとりくみ強化と募金の呼びかけ。
- 精神障がい者の支援を家族任せにせず、差別・偏見、人権侵害を無くしていくための精神保健医療福祉改革を「みんなねっとの提言」としまとめ、広く訴えていく。
- 多様な立場の家族との連帯と活動の連携・充実

## 2 基本構想(ビジョン)

### 1)法人運営の安定した活動を維持するための抜本的とりくみ

#### ①法人の持続運営のための全組織的な会員拡大(賛助会拡大PJ)

賛助会費は年額 3,600 円。複数賛助会員の法人への納入額の見直しアナウンスの徹底をした。また、個別賛助会員においてオンラインタイプ(WEB 賛助会員)の稼働準備をおこなった。  
みんなねっとサロンの機能充実のため目的特定型寄附募集を開始した。

#### ②法人の財源に応じた政策・事業規模の見極め

オンライン化に伴い、交通費の抑制など人の移動の抑制を中心に、日本財団助成事業として eラーニングシステムの構築や調査研究事業の法人外の研究への協力連携することなどにより、支出の抑制をおこないながらも、質的担保をおこなうことができた。

#### ③各都道府県連合会活動への WEB も活用した連携強化および各ブロック担当理事を通じた集約

### 2)家族本人の願い・思いをめざすべき方向を指針した活動で実現する

#### ①賛助会枠組みの見直し

賛助会員分類整理、会員種別 4 分類とした。そのうえで、さらに個別賛助会員を従来からの郵送タイプとオンラインタイプ(WEB 賛助会員)の 2 類とした。(実質的稼働は 2022 年度)

#### ②課題別要求のとりくみ

2021 年 6 月の総会承認を経て、「みんなねっと精神科医療への提言」に続き、  
2022年6月総会にて「みんなねっと精神保健福祉の提言(圧縮版)を発表

- 障害者政策への要望反映および

## 関係当局開催の会議・審議会への参加協力及び情報発信と集約

課題別要求の・重度障害者医療費助成制度の適用推進、・自立支援医療を入院にも拡大する、・生活できる年金のありかたを求めるなどを含め、障害者政策(年金・医療・教育を含む)に関する要望反映に努めた。

行政当局・公共団体等の審議会等役割受任のなかで、前項の提言を土台に意見表明している。なかでも、家族のピア活動や精神医療審査会への当事者・家族の参加の方向性打ち出し、交通運賃割引についてなど、国の施策案件として掲げられてきている。

### ・教育課題は特に教科書検定に向け、実施に向けての働きかけを強化する

実際の教科書見本の内容に注視し、教育現場に与える影響も鑑みて、教材補助などについても協力をおこなった。この中の一つとして、群馬大学の福田先生(みんなねつと政策委員)たちがまとめたリーフレットの作成・普及に協力した。高校生向け冊子『君のことを気にかけている、親の思い、保健室のつぶやき』

## ③調査研究事業

神澤尚利氏(所属:東京医科大学医学部看護学科 精神看護学領域 講師、山梨大学大学院医工農学総合研究部 博士課程)。の調査研究に協力することとした。

## ④ピアサポート事業(家族会活動の育成強化)

### ・精神障害者家族の遠隔支援システム整備事業【日本財団助成事業】

サロンと連動した情報提供および家族相談員養成 e ラーニングシステム構築

### ・家族向けネットコミュニティ(みんなねつとサロン)の展開拡充

### ・家族学習会のアドバイザー、担当者の養成:【JKA 補助事業】

a 家族支援ピアサポートセミナー 1か所(2か所中止)

b 家族学習会ファシリテーターの養成・フォローアップ 8か所(4か所中止)

c アドバイザー派遣事業、1か所(1か所中止)

d 企画委員会 4回開催(5/21、9/28、11/18、3/23)

### ・家族による家族学習会 家族学習会は43か所、そのうち5グループをリモート開催

### ・電話相談の実施 年間相談件数 308件 毎週水曜日開通

## ④研修事業

### ・みんなねつとフォーラム 参加者は221名の参加で、131名のアンケート回答があった。

今年度初めて、オンラインのみのリモート版みんなねつとフォーラムとして開催。

精神疾患と遺伝について、家族や当事者が自ら発信していくときに、様々な誤解や思い込みを解消するには正しい知識を身につけていく必要がある。家族やご本人はもちろん、支援者や関係者の皆さまと共に、精神疾患の遺伝について理解を深めるために開催。

講演『精神疾患に関わる遺伝、DNA、ゲノム』～家族会からの御質問、御意見へのお答えを～

講師 尾崎紀夫先生 名古屋大学 教授

### ・ブロック大会、全国大会

北海道・東北ブロック 秋田県連 オンライン開催 2021年11月12日

関東ブロック(全国大会) 東京都連 ハイブリット開催 2021年10月7～8日

\*オンライン配信での初の全国大会開催。都連・みんなねつとの独自財源が確保された

北信越ブロック	富山県連	ハイブリット開催	2022年3月4日
甲州・東海ブロック	静岡県連	リアル開催	2022年3月10～11日
近畿ブロック	大阪府連	オンライン開催	2021年12月11日
九州・沖縄ブロック	宮崎県連	ハイブリット開催	2022年3月17日
中国ブロック・四国ブロック	開催見送り		

### 3) みんなねっとを通じた社会啓発と広報活動の充実

#### ① 広報啓発活動

##### ・月刊みんなねっと誌の発行および電子版発行の具体化

みんなねっと賛助会員でWEBマイページ登録をしている方は、冊子のPDF版閲覧ができるシステム。しかし、普及には至っていない。WEB賛助会員(個別賛助会員オンラインタイプ)の展開に応じて、PDF版閲覧を前提としてシステムを組みなおした。

##### ・賛助会員

会員数減少傾向はぬぐえず、1万人を大きく割り込んでいる。WEB賛助会員の拡大やオンライン交流(単会)の検討も課題となった。

##### ・メルマガ・SNS、ホームページ・みんなねっとサロンの連動した展開

メルマガ登録者 2994名、LINE 696名、Twitter 1521名、  
みんなねっとサロン 4641名、Twitter サロンアカウント 123名、

##### ・オフラインミーティングの開催(以下オフ会)

みんなねっとサロン利用者を対象に、オンラインで交流会を開催。

##### ・みんなねっとブックレット新刊企画・監修・発行

ペンコムより、みんなねっとライブラリー第4弾を2021年12月23日に発売。

##### ・マスコミなど広報媒体への発信

今年度の特徴として、テレビ局や小学館などの企画段階での問い合わせに応じることが増えた。詳細は触れませんが内容をよくすり合わせる段階で公式な対応が難しいと判断するものもあった。

#### ② 他団体等との連携

- ・日本障害者フォーラム(JDF)をはじめ、関係諸団体などとの共催事業の検討・実施
- ・日本医療政策機構等関連団体との積極的な連携
- ・障害者権利条約日本勧告に係る国際的な視点からの協働

### 3 組織と事業内容

- ① 総 会 定例年1回(6月16日(水))
- ② 理 事 会 定例年3回(6月16日,10月20日,3月16日)
- ③ 代表理事会(打合せ) 月2回以上 \*事務局職員会議=WEB朝礼対応
- ④ 各委員会等
  - ・JRなど交通運賃割引推進プロジェクトチーム
  - ・月刊みんなねっと編集委員会

- ・家族学習会企画プロジェクト委員会
- ・提言実現プロジェクト
- ・みんなねっと政策委員会
- ・行政当局・公共団体等の役割受任

当会の目的を達成するためにも、行政当局等への参加と、関係機関・団体への協力を推進する。内閣府障害者政策委員会をはじめ24の受任をした。